

五輪へ2大会連続出場

水泳飛び込み中川選手

本学からロンドンへ3人目

中川真依選手（金沢学院大学大学院2年）が、水泳女子高飛び込み競技で前回の北京オリンピックに続いてロンドン大会への連続出場を決めました。これでトランポリンの伊藤正樹選手、岸彩乃選手とあわせ、本学から3人がロンドンへの切符を手にするようになりました。

中川選手は3月7日に、北國新聞社を訪れ、学校法人金沢学院理事長の飛田秀一会長と石川県水泳協会会長の高澤基社長に五輪出場決定を報告し、祝福と激励を受けました。

3月8日には、学内で報告会が行われ、大勢の学生、教職員から大きな祝福の拍手を受けました。榎木裕学長は「連



中川選手の華麗な演技

続の五輪出場は、快挙と言えます。先輩から伊藤君、岸さんに大舞台に臨むメンタル面のアドバースもお願いました。」との言葉を贈りました。

中川選手は「前回の経験を生かし、大会までに技の精度をあげ、メダル獲得を目指します」と強い決意を述べました。



先に五輪出場を決めている伊藤、岸選手から祝福される中川選手(右)

「第三清鐘寮」が完成

女子学生に安心・快適・便利

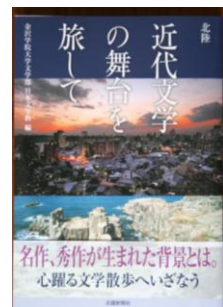
入居者を女子学生に限る第三清鐘寮がこのほど完成しました。4月に入学する女子学生が1年間の寮生活を通して生活面の学習も体験することになります。

第三清鐘寮は5階建てで、清鐘寮の隣接地に建設され、バス・トイレの個室が112室あり、寮費は朝夕食付きで月額4万5千円と格安になっております。寮監の配置など、厳重な防犯体制で、安心、快適、便利な寮生活をサポートします。



広く明るい1階カフェテリア

「北陸近代文学の舞台を旅して」を発刊



金沢学院大学文学部日本文学科の教員が「北陸近代文学の舞台を旅して」写真を北國新聞社から発刊しました。

これは、「月刊北國アクトラス」に連載された24編をまとめたものです。日本文学科の教員がリレーで取材・執筆を担当しました。

日本文学科として4冊目になります。前回発刊の「ほくろく文学紀行」では、戦後以降の現代小説に絞られていましたが、今回は明治から戦後までと時代の枠を拡げ、小説だけでなく詩や短歌も取り上げています。

北陸の地が、いかに文学的に肥沃な土地であるかを実感させてくれ、文学散歩に最適な一冊です。